

## 別記様式

## 会 議 録

会議の名称	令和5年度第4回戸田市外部評価委員会 (施策3-1 地域資源を活用した観光振興の推進)
開催日時	令和5年8月3日(木)午前10時30分 ~ 午前11時35分
開催方法	大会議室A
委員長等氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基
出席者氏名 (委員)	委員 石田 真由美 委員 宮崎 仁美 委員 芳賀 良 委員 長谷川 孝雄
欠席者氏名 (委員)	委員 興松 敬史
説明のため 出席した者	経済戦略室 室長 野崎 実治 担当課長 谷島 雅人 主幹 柄澤 映 協働推進課 主幹 渡邊 雅之 文化スポーツ課 課長 富田 健二 みどり公園課 課長 岡安 敦志
事務局	山本課長 石嶋主幹 北田副主幹 野本主任
議 題	1 外部評価委員紹介 2 担当部局紹介 3 外部評価ヒアリング
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	1 次第及びタイムテーブル 2 施策評価シート及び事務事業評価シート 3 ロジック・モデルシート 4 事前質問及び回答

( 会議の経過 )

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>1 開 会</p> <p>2 外部評価委員紹介 各委員の紹介を行った。</p> <p>3 担当部局紹介 評価対象施策担当部局の紹介を行った。</p> <p>4 外部評価ヒアリング</p> <p>○施策の概要 担当者 概要説明を行った。</p> <p>○事務事業の妥当性、施策指標の妥当性 委員 確認だが、事務事業と再掲の事務事業があるが、ロジック・モデルシートでは、すべて並列という受け取り方でよいか。どの事業も、施策を実施する上では必要な事業であるという受け取り方でよいか。</p> <p>担当者 どれも必要な事業と考えている。経済戦略室として、観光と名の付く予算に限った話で言えば、観光振興事業や戸田橋花火大会事業をメインと捉えているが、再掲の事務事業と優劣を付けているわけではない。</p> <p>委員 施策評価シートの中で、事務事業について評価しているが、再掲の事務事業については、評価の記載がない。この施策を遂行する上で、必要な事務事業であるならば、この施策を担当する部署が包括して評価を行うべきではないのか。</p> <p>事務局 再掲の事務事業の場合、部局として評価をしていないわけではなく、システムの仕様上、入力ができない状況になっている。</p> <p>委員 その場合、評価はどこに表れ、どこで行われているのか。施策について、</p>

	<p>どういう位置づけで、どういうところまでで、これからどうやっていくというような評価はどこが行うのか。</p>
<p>担当者</p>	<p>システムの制約というのもあるが、本質的なところと言えば、例えば、商工祭や収穫祭がある。さらに広げて、他部局である文化スポーツ課などまでを、取り込んでフォーカスできるかという課題はあるが、少なくとも商工祭や収穫祭を踏まえた書きぶりというのは必要であると考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>施策もP D C Aで回していくわけで、一つ一つやったことに対するチェック機能が働かないと、改善もできないだろうし、先のプランニングもできないと思ったので、質問した。</p>
<p>事務局</p>	<p>施策の目的を達成するために寄与するものとして、再掲の事務事業を展開している。構成している事務事業は、すべて必要な事業として展開していることから、それを総括することに関しては、再掲の事務事業になっている事業も含めて他の部局とも連携していく必要がある。</p>
<p>委員</p>	<p>事務事業そのものは、本当に一生懸命取り組んでいると思う。事務事業の成果もそれなりに出ていると感じているが、それを取りまとめて施策としてどうなのかというところは、はっきりさせた方が良いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>指標に「愛着を感じている割合」と書かれているが、愛着といっても戸田市民の満足度は、この観光振興の領域だけではない。あまりにも広い概念で、これを指標にするところの妥当性は、どのように考えているのか。むしろ、観光振興ということであると、地方の自治体などでも見られるが、経済効果がどうなっているかを主目的になるように考えられている。ここはどのように考えればよいか。</p> <p>2点目は、観光振興の定義は、市外からの人の流入というところが、一般的な狭義の定義だと思うが、市内外からの観光ということで、町おこしの部分と、本当の観光振興という観点が、定義に混在してないか。入込客数は、市内の人が参加した場合も関係するが、そういう意味では観光振興の定義が、本施策の目的としてはっきりしておらず、緩慢な指標設定になっている</p>

	<p>のではないか。</p> <p>あともう一つ、例えば、観光振興と連動させられるような話として、ふるさと納税がある。特にふるさと納税は、今、コト消費ということで、地域の特産物を出すのではなく、地域に来てもらい、いろいろな活動してもらう。戸田市も道満のキャンプなどがあると思うが、まさにそういうところとの連動が必要だと思う。概念的には、施策30の産業振興で、取り扱っているかもしれないが、そのあたりの関連性について、見解を聞きたい。</p>
担当者	<p>まず、観光の市内外という話については、確かに観光という外から呼び込むことが一般的ということはある。率直に申し上げて、花火大会や外からも人が来るような大々的なイベントについては、彩湖・道満グリーンパークが今、力を入れているので、多くの方が訪れているが、他の名だたる観光を売りにしているところに比べると、どうしても資源的に見込んでいくものが少ないと考えている。市外だけでなく、市民の方にも市内周遊といったようなところも目指していった方がいいのではということでの設定になっている。</p>
	<p>経済効果については、施策30の産業振興でも、ふるさと納税であれば出している人がどれだけ利益があるのかという点について、昨年度の外部評価ヒアリングで話があった。いろいろな統計情報についても、昨年度の外部評価ヒアリングで話があったが、そういった指標も測っていかなければいけないと思っているが、そこまで至っていないというのが、正直なところである。</p> <p>ふるさと納税に関しては、施策30を構成する事務事業の指標になっているが、コト消費がクローズアップされている中、道満で言えば、手ぶらでバーベキューもふるさと納税の返礼品として開始している。花火大会で言えば、チケットを返礼品として出しているので、観光の方でも指標の検討をした方がいいと考えているが、今現在は答えを持ち合わせてはいない。</p>
委員	<p>もう少し定量的な指標を盛り込んだ方がいいのではないかと。観光振興にマッチするような指標というところが、ぼやけているように感じる。</p>
委員	<p>この施策の本当の狙いは、観光なのか。観光地に人を呼ぶ、イベントに人を呼ぶというような書き方になっている。ただ、その中で指標を見ると、</p>

	<p>シティーセールスのような部分もある。事前質問にもそれに関する質問が出ているが、一番大きな問題はそこではないか。観光とシティーセールスをどのように施策の中で両立させていくか、あるいは分けてしまうのか。</p> <p>以前のヒアリングの議事録をみると、基本的には観光でイベントに何人、観光地に何人と。ここ数年、件数が少ないのは、コロナで花火大会がなく、半分くらいになっている。それがメインなのか、それとも指標に書いている「住み続けたいと感じている市民の割合」をどういうふうに考えるのか。担当セクションとしては、どのようにやろうと考えているのか。前回のヒアリングの時にも同じようなことが書かれているかと思うが、それがあると、この施策の意味や施策に対する事務事業の意味合い、施策に対する再掲の事務事業の割合とかがもっとはっきりするのではないかと考えている。</p> <p>もちろん、全体の枠組みの問題もあるのかもしれないが。</p>
担当者	<p>経済戦略室としては、正直、観光としか言えない。観光のその先に本当はもう一つの大きなシティーセールスがあるというところは感じてはいるが。そのあたりの庁内的な位置や部門的な関係では、なかなか一本になっていないところがある。どうしてもいろんな状況等があり、今そういったことになっているが、我々としても悩ましいところもある。ただ、現状の経済戦略室の体制の中では、シティーセールスそのものまでいくと、人的な投入だとかにも話が及んでくることになると思うので、人事部門との調整や予算的な調整などが必要である。</p>
委員	<p>事務局に確認だが、総合振興計画が決まったのは、令和3年1月頃で、キックオフが令和3年4月で非常に期間が短い。本当にここに書いてあることを全部理解して事務事業を選定しているのか。当委員会で昨年もらった実施計画は、令和3・4・5年となっており、今度は4・5・6年、その次は5・6・7年が出るのだと思うが、令和4・5・6年度の実施計画書は出ているのか。</p>
事務局	<p>実施計画書は毎年、3カ年分を更新している。</p>
委員	<p>その際に、ロジック・モデルシートは、書き換えているのか。</p>

事務局	<p>ロジック・モデルシートは試行的に取り入れており、第5次総合振興計画から開始している。令和3年度をスタートするタイミングで作成した。また、今回、お示ししている令和4年度という形に更新をかけている。令和5年度に関しても昨年度予算要求の際に、こういった事業展開をしていくということで作成している。</p>
委員	<p>ロジック・モデルシートに従って事務事業を作るのか、事務事業をロジック・モデルシートに当てはめるのか。実際のところはどうなのか。</p> <p>先ほど、ロジック・モデルシートに従って事務事業を考えて積み上げている話があったと思うが、事務事業を見ると、令和3年度から始まった事務事業がない。せいぜいあるのは、コロナ関係で令和2年度から開始したもの。もちろん、新規事業がすぐにできないことは理解できるので、最初は今までやってきた事業になるのは、仕方がない。</p> <p>それをどこかで見直す機会というのは、前期から後期に変わる時ということか。</p>
事務局	<p>毎年、内部評価を行い、事務事業と施策を振り返る中で、事業を評価した結果、その施策に対して寄与する内容であるかを検討した上で、新たな事業として立ち上げる仕組みがある。</p> <p>令和3年度から総合振興計画が始まった際、新たな事業があまりないのは、第5次総合振興計画を1年回した結果、事務事業のロジックが崩れていたもので、2年目でいきなり変更するということは、あまりなかったものと考ええる。また、内部評価における見直し時期が前期基本計画と後期基本計画の切替え時でないといけないというルールは全くないので、必要とあれば、ロジック・モデルシートに合わせて、新たな事業を積み上げていくという考え方になる。</p>
委員長	<p>この視点は重要で、この施策だけでなく全体に関わることもかもしれないので、行政において考えると同時に、外部評価委員会でも、全体をまとめるときに1回、検討や相談をしたいと思っている。</p>

委員	<p>本日は、経済戦略室がメインとなり、関係課の方も参加されている。この施策を運営する際に、各事務事業には所管があるが、その施策の担当部局として、再掲の事務事業においても、例えば、公園の指定管理問題等々に関し、当施策を所管する主部局として、こういう施策ニーズがあるから、これを一定程度配慮してもらいたいというリクエストはしているのか。</p>
担当者	<p>そのようなことを取り組んでいるかどうかで言えば、必要に応じて、取り組んでいる。例えば、花火大会の関係であれば、地元の自治会の方や戸田市の友好都市の方を招待する際は、協働推進課と連携している。ただ、正直なところ、常に一緒に連携していると言われると難しいところはある。</p>
委員	<p>簡単に例えば、毎年、予算編成のために、いろいろ議論していると思うが、その段階で、来年度に向けて施策の主管部局の立場からすると、予算編成にあたっては、この要素を考慮いただきたいという、入口レベルの話で良いが、そのような相談やオーダーはあるのか。</p>
担当者	<p>必要に応じて、ということで、今、具体的なエピソードは思いつかないが、ないわけではない。</p>
委員	<p>そうすると、具体的に施策を推進する上で、例えばその公園の指定管理事業等に関し、我々も観光として頑張るので、そのために施策としてこの要素をお願いしたいというリクエストをしたような実績があるのか。</p>
担当者	<p>道満グリーンパークで言えば、手ぶらでバーベキューは、経済戦略室でふるさと納税の返礼品として出しているが、道満グリーンパークで来場者に、より喜んでいただくという取組の中で始まった事業である。そこに経済戦略室が加わり、一緒に動いている。</p>
委員	<p>同じようなことがスポーツ関係でもあるのか。</p>
担当者	<p>ここ数年で、どれだけあったかは持ち合わせていないが、もちろん皆無ではない。ただ、同じ部局であれば、ある程度、今言ったような動きが容易に</p>

	<p>できるところはある。みどり公園課と経済戦略室は、同じ環境経済部であるため、割と連携しやすいが、文化スポーツ課や協働推進課は別の部局になるので、どうしても難しいことがある。当然、課同士で上手く連携しているものもあれば、内容によっては先にその部局で考えるという案件もあるので、必ずしもコンパクトな動きの中で実現できるか、できるものとできないものがある。</p>
委員	<p>質問の趣旨としては、施策の担当部局の立場上、こういうことを言わなければいけないということで、施策の推進のために、この事業は連携対象であるから我々の立場からすると、これをこのようにお願いしたいというコミュニケーションを図っているかという質問である。</p>
担当者	<p>結果的に結びつかないこともあるが、そういったことは行っている。この施策の範囲に限らず、そういったやりとりは、ある。</p>
委員	<p>今やっただいている事業は、第5次総合振興計画の中の2021年度から2030年度の間には達成を目指していると私は認識している。</p> <p>近年、戸田市のPR大使が任命されて、実際に活動されていると思うが、PR大使の任命や連携はどのようになっているのか。</p>
担当者	<p>任命自体は、市長公室で行っている。PR大使の方とコラボであれば、我々だけでなく、いろいろな所属で行っている。経済戦略室で言えば、PR大使が監修したチーズケーキは就任した直後の段階でコンタクトを取り返礼品に出した。あと、実現はできなかったが、花火大会に出ただけであれば、盛り上がるのではということで、検討などをしていた。</p>
委員	<p>連携が取れば、今、サッカーで活躍されている長谷川唯さんも今がチャンスではないかと思った。十分に何かPR大使との連携が図れば、もっと推進になるではと思う。</p>
委員	<p>結果的に観光が充実して、市外から人が来ることで戸田市としてはどんな効果があるのか。</p>

<p>担当者</p>	<p>最終成果のその先に何を求めているのかという質問と捉えました。部門的な言い方になるが、経済戦略室の立場としては経済効果について、もっと把握しておかなければいけない。</p> <p>シティーセールスで言えば、認知度や別のところにゴールがあるかと思うが、経済戦略室として答えるべきものとしては、経済効果ということになると思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>施策の中に経済効果などが全く入っていないので、少し掴みにくいと思った。そういったところをどこかに明記してもらえればわかりやすくなる。</p>
<p>委員長</p>	<p>経済効果で言うと、埼玉県全体の観光地では、川越市や秩父市などがある。日帰り観光やホテルとかいわゆる観光地と比べると戸田市の観光は、まだ、少ないかもしれない。</p>
<p>委員</p>	<p><b>○資源の方向性、その他</b></p> <p>イベント開催時は、人が一気に来るが、事務事業評価シートの投入人員では1人となっていた。年間平均ということだと思うが、例えば花火大会では、一年中、人が必要なわけではないことはわかるが、非常勤の扱いなどで効率よくできるのか。</p> <p>イベントは、短期間に集中して人を投入しなくてはいけないが、前後はそれほどでもないなど、資源の配置の仕方は、今どうしているのか。観光地の維持やトピックなどの人材の配置については、上手くできているのか。</p>
<p>担当者</p>	<p>人的資源のやりくりでいけば、結果的に上手くいっているが、苦慮はしている。特に花火大会で言うと、4年間やっていなかった中での開催である。</p> <p>我々に経験がないことで、良いと思っていたことでも、問題が出ては再度検討するなど、今まさに準備している最中では、そういう状況である。ただ、経験者をずっと経済戦略室に配置できるかということ、本市の人事制度はそういうことにはなっていないので、経験者に応援に来てもらうなどのやりくりをしている。</p> <p>経済戦略室では、会計年度任用職員を2人、任用している。一人は花火大</p>

	<p>会の準備が始まれば、その電話対応や庶務事務を中心に行っている。</p> <p>また、花火大会を開催しなかった3年間は、コロナ関係事業として、いろいろな経済支援をしていたので、そういったところに人を充てていた。</p>
<p>委員</p>	<p>予算の視点で確認だが、ほとんどが花火大会に関するものである。4年ぶりの開催だが、花火大会事業に対する従来の予算規模は、この水準でよいか。</p> <p>また、今回、4年ぶりで規模もすごく拡大しており、お金がすごく膨れ上がっていると思う。一方で、花火大会のチケット販売や他のところではクラウドファンディングで調達しているところもあるが、花火大会事業に対して、いわゆる税金由来の一般会計予算の投入割合は、どうなっているのか。</p>
<p>担当者</p>	<p>予算規模の推移としては、最後に開催した令和元年度の花火大会とあくまで予算ベースだが今回の花火大会では、2倍以上の膨れ具合である。今回の花火大会は西側にも有料席を設けたので、その会場設営費や警備を厚くするというところで専門の警備員の状況など、今回に限った要素がありつつも、基本的に人件費など諸々が上がっていることによる影響が大きいと踏んでいる。来年度の花火大会がどういう形で行うかは今回の実施状況を踏まえて考えなければいけないが、劇的にコストを下げられるかというところ難しいところはあると思っている。</p> <p>ほかでは、クラウドファンディングなどの取組もあるが、我々は、まだその検討に至っていないという状況である。</p>
<p>委員</p>	<p>チケット販売の部分が寄与してはしないのか。</p>
<p>担当者</p>	<p>税金以外で何か充てられるものとしては、チケット収入がある。有料席の運営業務は委託であり、受託業者の取り分となるが、市の取り分もある。協賛金を集めているので、そういったところと言うと、全体の費用の5分の1、4分の1ぐらいはそのような収入で充てられるのではないかと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>担当部局への質問と事務局への質問が重複してしまうかもしれないが、市内外からの観光で人が動くということを予定していると考えれば、例えば商店街振興のクーポン券配布あるいはプレミアム商品券事業による寄与する部</p>

	<p>分あるいは市が行う広い意味でいうDX政策における情報発信の費用というものが、施策31で対処されている部分に関係することが想定される。その意味で言うと、そのクーポン券事業をもう一回やる場合に、施策31に貢献することを理由に一定程度、施策31から資源を投入するということもあり得るわけである。そうすると方向性の議論の枠組みが変わってしまうので、商店街振興という枠組みで観光に寄与するという理由からみた、クーポン券事業等との関係と、市が行っている情報プラットフォーム上に観光を掲載する際に費用がかかることがあることについて、どう考えたら良いかを精査したい。</p>
<p>担当者</p>	<p>まさに今、プレミアム付き電子商品券事業が始まっている。それは市の補助金という形で商工会が主体で行っている。それに関しては地元の店舗への経済効果や市民の生活への支援についても狙っているところである。当然、その中で、使えるお店の魅力的な発信など、考え次第では確かに施策31の事業にもなるのではないかと考える。冒頭で申し上げた地域資源の掘り起こし発信については、そういった地元密着のようなことにもなっていく。例えば、ここのお店が美味しい、ここのお店がインスタ映えするなどについても、どんどん発信していく必要があるのではないかと考えた時は、施策としての切り分けが難しい。施策の枠組みの中でどのように取り込むかについては、難しいと考える。</p>
<p>委員</p>	<p>単純に花火大会などのイベント費用だけ見ればよいのか、資源の方向性だけ見れば良いのかとは、少し違うと思いつつ、私が申し上げたようなことも含めた資源の方向性ということもあり、前提が間違ってしまうと、いけないので質問した。</p>
<p>事務局</p>	<p>資源の方向性について、今の仕組みでは、施策31で構成されている事務事業を積み上げて資源をどう落としていくかというところになるので、先ほどの商工振興も観光に貢献していたり、地域の愛着を育むにも寄与することと思うが、施策30がメインで、施策31では再掲の事務事業になっている。再掲の事務事業については、資源が評価には含まれていないので、主たる事務事業の資源について、評価をするということを進めていただきたい。</p>

委員	<p>今のディスカッションの中で明らかになったことは、再掲の事務事業として可能性がある事業が、もし挙がっていないということであれば、外部評価シート上の事務事業の妥当性で、コメントを入れるということに理解した。</p> <p>5 閉 会</p>
----	---